

令和元年 10 月 15 日

「令和元年度木材研究所試験研究成果発表会及び特別講演」 を開催します

木材研究所の最近の試験研究成果の中から 2 課題を選び、下記のとおり発表会を開催します。

また、特別講演（富山県森林・木材研究所振興協議会との共催）も併せて開催しますのでご案内します。

1. 開催日時および場所

日 時：令和元年 10 月 18 日（金） 13 時 30 分～16 時 30 分

場 所：富山県農林水産総合技術センター木材研究所
管理棟 2 階研修室（〒939-0311 射水市黒河新 4940）

2. 試験研究成果発表会及び特別講演の概要（発表内容は別紙資料参照）

1) 試験研究成果発表会 13 時 30 分～14 時 50 分

「製材面に現われる大径材の節の分布」

木材研究所 木質構造課 副主幹研究員 園田 里見

「県産材製材品データベースの紹介と製材業における供給体制の提案」

木材研究所 木質製品課 研究員 村井 敦史

2) 特別講演 15 時 00 分～16 時 30 分

「木材業界人さん今後どうします？」

三重大学大学院生物資源学研究科

教授 中井 毅尚 氏

※裏面に発表内容を記載しています。

成 果 発 表 及 び 講 演 の 内 容

1. 成果発表

13:30～14:50

(1) 製材面に現われる大径材の節の分布

木材研究所 木質構造課 副主幹研究員 園田 里見

近年、戸建住宅だけでなく、公共建築物も木造化が進み、構造材を美しく魅せる設計が注目されている。一方、県内のスギ人工林は高齢級化が進み、今後大径丸太の出材が予想される。これまで、大径化したボカスギを対象に番玉や丸太内の位置の違いによって材質強度が異なることを調査し、構造用製材の木取りに有益な情報が得られた。今回さらに、製材の価格評価や意匠性への影響が大きい節について調査した。その結果、樹冠材と枝下材の区分に準じた樹幹内の節の分布を確認した。本発表では、これらの知見とともに、節の小ささや強度を狙った製材を得る上で有効な、丸太の判別やその木取りについて報告する。

(2) 県産材製材品データベースの紹介と製材業における供給体制の提案

木材研究所 木質製品課 研究員 村井 敦史

公共建築物等の木造・木質化等による県産材製材品の大口需要が増加しており、木材業の振興の機運が到来しているが、納材経験者からは「複数の製材所との調整が難しい」「設計者からの要求（納期、品質等）が厳しい」「どの製材所で対応するか」など、供給体制の課題点が多数挙げられている。供給体制の整備が必要であるが、業界は川上から川下まで多様で多くの事業者が存在するため単純に結び付けることは難しく、また業界の実態が不明瞭なため、どのように構築していくかというたたき台と実態の調査が必要である。本発表では、①県内製材工場等が生産する県産材製材品のデータベースと製材工場の実態、②連携協力体制を導入した先行事例地の調査について報告し、たたき台としての供給体制について提案する。

2 特別講演

15:00～16:30

「木材業界人さん今後どうします？」

三重大学大学院生物資源学研究科 教授 中井 毅尚 氏

日本の裏山にはワサワサと人工林が生え、御上が「収穫期だ！」と発破をかける。そこへヒツジの皮をかぶったオオカミがやってきて「はげ山（造林未済地）」にする。オオカミも生活費が必要だから仕方ないと開き直る。開き直ったオオカミが、一転、最大顧客である建築・土木屋さんに捨て犬のように扱われる。当然だ、「生き馬の目を抜く」業界人に勝てる訳がないし、勝つためのお勉強もしていない。だったら付き合うのをやめる？新しいパートナーを探しますか？本講演では、木材利用を取り巻く環境の現状と課題を整理しつつ、「策に溺れない未来」のあり方について議論する場としたい。

3 とやま木と住まいフェア 2019

開催日時：令和元年 10 月 19 日（土） 10 時 00 分～15 時 00 分

開催場所：富山県農林水産総合技術センター木材研究所